



# 社会的投資として次世代を担う 子ども達を応援してください！

## 寄付でのご支援のお願い

**法人サポーターになる**  
(年間一口5万円～)

エデュケーションエーキューブの支援活動の基礎となる、奨学金制度を支える仕組みです。  
法人サポーター3口で、学校に通えない子ども1人を1年間支援することができます。

**新しい教室のオーナーになる**  
(一教室：300万円)

エデュケーションエーキューブでは、オルタナティブスクールを100拠点展開することを予定しています。300万円で学習拠点を1か所増やすことができます。(1か所あたり約50名の生徒を支援できます。)  
開設場所については、双方協議のうえ決定いたします。

### ～特典～

- 01** WEBサイトにロゴ掲載
  - 02** 年次報告書の送付
  - 03** 事業報告会へのご招待(東京・福岡)
  - 04** 「2030 SDGs」を使った研修(15万円相当)の割引提供
- 「2030 SDGs」は、SDGsの17の目標を達成するために、現在から2030年までの道のりを体験し、我々一人一人がなにをすべきか考えるゲームです。企業、学校、自治体などでSDGsへの理解を深める目的のほか、新規事業創出や社員のキャリア形成などでの目的で利用されています。

## 寄付以外のご支援のお願い

他にも「企業・団体内で募金活動を行う」「社内での講演会・勉強会の企画をする」「フリースクールの子ども達とともにイベントの企画をする」などの多様な形でのご支援をお待ちしております。



### 誰でも、いつでも、どこでも、教育の機会を

エデュケーションエーキューブはEducation(教育)について3つのAを実現しようという思いから誕生しました。  
eラーニング等IT技術を活用することにより、Anyone(誰でも)、Anytime(いつでも)、Anywhere(どこでも)良質な教育の機会が得られる環境をつくります。



認定NPO法人エデュケーションエーキューブ

〒819-0043 福岡県福岡市西区野方1-19-33

Web <http://education-a3.net/>

Email [info@education-a3.net](mailto:info@education-a3.net)

<https://www.facebook.com/Education.A3>

[education\\_a3](https://www.instagram.com/education_a3)



# Anyone can be anything!

～誰もが何にでもなれる社会を目指して～

認定NPO法人エデュケーションエーキューブ

# 年次報告書

# 第9期

2021.7~2022.6

## 目次

- 01 年次報告書 2021.7~ 2022.6 [第9期]
- 02 ご挨拶
- 03 私たちのミッションとロジックモデル
- 05 私たちが取り組む社会課題  
目に見えにくい子どもの貧困
- 06 私たちが取り組む社会課題  
学ぶ権利を奪われている子ども達
- 07 多機能型学習拠点「スタディプレイス」事業
- 09 特別奨学生制度
- 10 私たちが応援している子ども達
- 11 第9期の取り組み
- 12 収支報告
- 13 ご支援のお願い

様々な形でご支援いただいた皆さまに  
心より感謝申し上げます。

## ご挨拶

### 10年目を迎えて

認定NPO法人エデュケーションエーキューブの活動へのご理解とご支援、誠にありがとうございます。

第9期も引き続き、新型コロナウイルスと共存を強いられた1年でした。保護者や子ども達に加え、スタッフにも感染が広がりましたが、これまで積み上げてきたノウハウを活用し、感染拡大期にはオンライン対応を進め、安全に子ども達に学びや体験の機会を提供してきました。また、これまで蓄積したオンライン対応のノウハウを元にオンラインコースを本格的に開始しました。プラットフォーム事業の第一弾として、福岡県行橋市にあるフリースクール風の里と提携し、オンラインで運営を受託する試みを開始しました。

10期では、報道の枠を超えて、社会課題解決のアクションを志す西日本新聞と連携し、学校を選べない子ども達の選択肢を増やすため報道から具体的な課題解決に繋げる共同のクラウドファンディングプロジェクトを実施します。

今期は10年目の節目の1年として、これまでの学校に代わる選択肢となるオルタナティブスクール運営の知見をまとめ、一人でも多くの学校に通えない子ども達をサポートできる体制を構築するため、事業運営に推進していきたいと考えています。



代表理事 草場 勇一

不登校が特別な事ではないという考えが少しずつ世の中に浸透してきましたが、学校に代わる場所の存在は極めて限られていて、費用負担も大きいことから、誰にでも開かれているわけではありません。一方で、引き続きコロナ禍の日常の中で、オンラインでの学びの機会の提供も求められています。もしも自分がその境遇にいたと想像すると頼れる場所が余りにも少ないことに愕然とします。

弊社では学校に代わる場所としての「オルタナティブスクール」とオンライン対応に早くから取り組んで参りました。私たちは歩みを止めずに、一人でも多くの子どもたちを支援できるように努力を続けています。これまでの皆様のご支援に感謝すると共に、一層支援の輪を広げることができるよう引き続き伴走していただけますようお願い申し上げます。



副代表理事 佐村 礼二郎  
エー・アイ・キャピタル株式会社  
代表取締役社長 CIO

## 理事



竹井 雅文  
修学館 元館長



伊藤 尚毅  
アント・キャピタル・パートナーズ株式会社  
マネージングパートナー



原口 唯  
株式会社YOUI  
代表取締役

## 正会員 (五十音順)

伊藤 雅浩 さま  
シティライツ法律事務所  
弁護士

原口 唯 さま  
株式会社 YOUI  
代表取締役

増山 秀信 さま  
株式会社 StoreHero  
取締役

渡邊 康治 さま  
Hello Tomorrow Japan  
Director

伊藤 尚毅 さま  
アント・キャピタル・パートナーズ株式会社  
マネージングパートナー

小村 富士夫 さま  
株式会社Jスタイル  
代表取締役

見満 周宜 さま  
Yosemite LLC  
代表

山本 教貴 さま  
山本公認会計士・税理士事務所  
公認会計士/税理士

佐村 礼二郎  
エー・アイ・キャピタル株式会社 代表取締役社長 CIO

草場 勇一  
NPO法人エデュケーションエーキューブ 代表理事

# 誰もが何にでもなれる 社会を目指して

## Anyone can be anything!

### 努力すれば誰もが自分の目標や夢を実現できる社会

日本の子ども達の約7人に1人は相対的貧困状態にあり、十分な教育や体験の機会が得られていません。エデュケーションエキューブはICTを教育分野に活用し、eラーニングを活用した学習支援や社会で必要となる新しい学びの機会を通じて、子ども達が自分の夢に向かって積極的にチャレンジできる社会をつくります。

## Logic Model ロジックモデル

ミッションを実現するためのロジックモデル(シナリオ)

### 【活動内容】

#### スタディプレイス事業

経済的に厳しい環境にいる子ども達も利用可能なeラーニングを活用して低料金で学べる多機能型学習拠点

フリースクール

通信制高校（サポート校）

学習塾

アフタースクール

### 【結果】

- ✓ 授業開催日
- ✓ 参加人数
- ✓ 出席率
- ✓ 拠点数
- ✓ 学習時間
- ✓ 学習意欲
- ✓ 提供授業数

### 【初期段階の成果】 (小・中学校)

- ・基礎学力の向上
- ・学習スキル
- ・ITに触れる／活用する
- ・お金に関心を持つ



- ・自分で考え、意見を持つ
- ・自分の思いを表現できる
- ・自分の好きや楽しいを知る

- ・外国人とコミュニケーション経験
- ・多様性を知る(国際性・LGBT等)



- ・自分の居場所がある
- ・好きなこと／取り組んでいることがある

### 【中期段階の成果】 (高校・専門学校・大学)

- ・進学率
- ・キャリア教育
- ・ITを高度に利用する
- ・経済や金融に関心を持つ



- ・常識を疑う発想ができる
- ・0から1を作る
- ・課題を発見し問いを立てる

- ・友達／尊敬できる人／相談できる人がいる
- ・ディスカッション力
- ・渡航 or 留学経験



- ・長所を認めている
- ・目標に向けての努力やチャレンジ精神
- ・夢や職業イメージ

### 【後期段階の成果】 (就職後)

- ・相対的貧困の脱却
- ・正規雇用／個人事業
- ・ITリテラシー高
- ・賢い消費者になる



- ・批判的思考
- ・想像力
- ・課題発見力



- ・聞く力・話す力
- ・多様性を理解する力
- ・グローバルシチズンシップ



- ・自己肯定感が高い
- ・謙虚さ／素直さ
- ・やりたいことがある



経済的自立

精神的自立

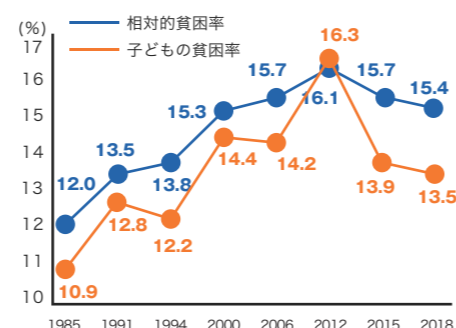
# 目に見えにくい 子どもの貧困

貧困や格差の問題は、途上国の問題という印象が強いかもかもしれません。しかし日本にも、最低限の衣食住は満たせても、教育・体験・人との繋がりなどの格差により、将来の可能性を制限されている“しんどい子ども達”が存在しています。

## 01 目に見えない貧困に苦しむ子ども達

日本の相対的貧困率は2012年以降は減少傾向にあるものの、引き続き、13.5%、7人に1人の子ども達が相対的貧困状態におかれています。なかでも、日本はひとり親世帯で親が就業している家庭の子どもの相対的貧困率においてはOECD諸国の中でも最下位レベルにあり、見えない貧困が深刻化しています。

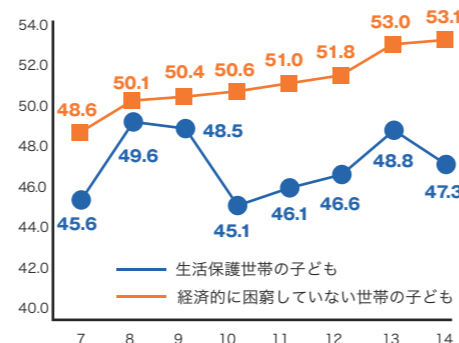
<日本の相対的貧困率の推移> (厚労省の公式発表)



## 02 10歳を境に急激に低下する 経済的困窮世帯の子どもの学力

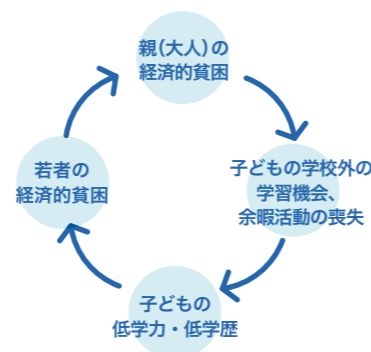
世帯収入と子どもの学力には高い相関関係があると言われています。日本財団が2.5万人の子どもを対象に実施した調査によれば、貧困状態にあると、学力は低くなる傾向があり、特に小学校4年生(10歳)以降で学力が大きく低下することがわかっています。データでは、年齢が上がるにつれ、貧困世帯は低学力へ、非困窮世帯は高学力へ集中していて、低学力の子どもが、低学力層から脱出できる可能性は学年とともに低下し、逆転が困難な状況にあります。

<生活保護世帯と経済的に困窮していない世帯の偏差値の推移(国語)>



## 03 世代を超えた貧困の固定化

家庭の経済格差は、子どもから学習の機会やさまざまな体験活動の機会を奪うことにつながります。教育機会に恵まれなかったことで低学力・低学歴になってしまった子どもは、大きくなったときに所得の低い職業につかざるを得なくなり、貧困が世代間を超えて連鎖し、固定化しています。



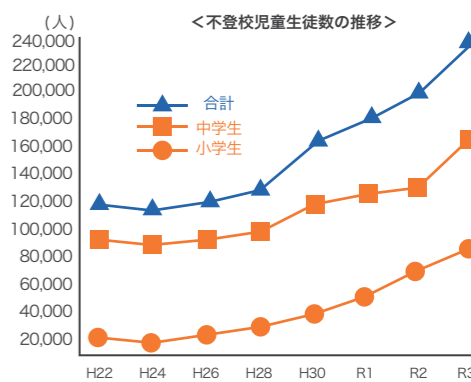
出典：厚生労働省(2020)「2019年国民生活基礎調査 結果の概況」、 「生活保護受給世帯出身の大学生等の生活実態の調査・研究」、 「家庭の経済格差と子どもの認知・非認知能力格差の関係分析 (日本財団、2017)

# 学ぶ権利を奪われている 子ども達

「学校」に通えない子ども達が増加しています。日本には義務教育を受ける場所は学校しかありません。子ども達の学ぶ権利を保障するためには学校以外の選択肢が必要とされています。

## 01 不登校児童数

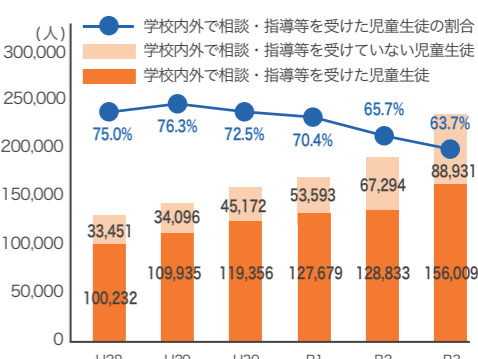
文科省調査では、2021年度の小・中学校の不登校の児童生徒数(30日以上欠席)はコロナ禍の影響もあり、24.4万人と前年度19.6万人から24%増と急増しています。更に深刻なのは、うち、90日以上長期欠席児童数が全体の約55%の13.4万人となっており、子ども達に保証されている義務教育を受けているとは言えない状態になっています。



## 02 社会から孤立していく子ども達

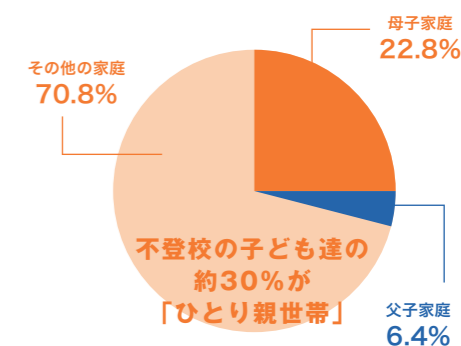
不登校の子どものうち、不登校児童の36.3%に当たる約8.9万人が、学校内外で何らの相談・指導等を受けることができておらず、社会から隔離された状態にあります。更に、相談が受けられたとしても、不登校支援においては相談を受ける機関の質・量・ネットワーク・支援の担い手は不足しており、そこから適切な居場所や支援に繋がるケースは決して多くないのが現状です。

<不登校児童生徒が学校内外で相談・指導等を受けた状況>



## 03 貧困と不登校の関係

学校教育法上の“学校”以外の学びの場を選ぶ場合、公の補助はありませんので、フリースクールの授業料は全額家庭負担となるケースがほとんどです。2015年の調査では、フリースクールの全国平均の授業料は、月額33,000円となっており、保護者の経済的負担は大きく、経済的理由からフリースクールを選択できないケースも存在しています。不登校児童を対象にした調査では、不登校だった子ども達の約30%がひとり親世帯の子ども達だという調査結果もあります。



出典：日本財団「不登校傾向にある子どもの実態調査」、文部科学省「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導状の諸課題に関する調査」



事業  
内容

## 多機能型学習拠点 「スタディプレイス事業」

経済格差に起因する教育や体験機会の格差是正を目的に、経済的に厳しい環境にいる子ども達も利用可能な、低料金で学べる多機能型学習拠点「スタディプレイス」を展開しています。小学生から高校生を対象に、アフタースクール・学習塾・フリースクール・通信制高校として子ども達をサポートすることで、幅広い年齢の子ども達に対し、社会で自立していくために必要な多様な学びの機会を提供しています。

### 学習塾・ アフタースクール

学習塾ではICTを活用し、自分の学力に合わせて、子ども達が主体的に自ら学ぶ力をつけることを目指しています。アフタースクールでは、英語教育が始まる前の子ども達を対象に、ゲームを使って英語にたくさん触れる機会を提供しています。

### フリー スクール

「学校は苦手だけど学習はがんばりたい」と思う学校に通えない子ども達を応援しています。学校の学習に加えて、ディスカッション、IT教育、マネー教育、キャリア教育などを行い、社会に出てからも役立つ学びの機会を提供します。

### 通信制 高校

沖縄にある通信制高校「八洲学園大学国際高等学校」の高校卒業資格を取得することができます。小中学校の振り返り学習や社会に必要な新しい学び、体験学習を取り入れています。

スタッフ  
紹介

スタディプレイスは、eラーニングを活用していますが、子ども達の学習に関する質問への対応や学習以外のことをサポートするために、フリースクールには社会福祉士の資格を持つスタッフや英語が堪能なスタッフが常駐しています。また、大学生スタッフや学生インターン生が、活動を支えています。



佐藤 和己

大学時代には、塾講師、不登校児童生徒への学習支援・余暇活動支援、福岡県田川郡添田町学習支援事業「英峰塾」の学生代表を経験。好きなことは古着・ゲーム・バイクや車でかけること。社会福祉士。



安川 由莉

大学時代には、インド留学、国際ディベート大会への出場するなどグローバルな活動を経験。TOEICのスコアは815点。アルバイトで英語塾講師を経験。好きなことは野球観戦とイラストを描くこと。

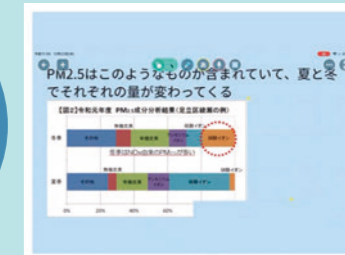
## スタディプレイスの様子

### ICTを活用した 個別学習



子ども達にはひとり一台のiPadを準備し、自分の目標や学力レベルに合わせて自分のペースで学ぶ個別最適化された学習環境を提供しています。eラーニングでの学習によって生徒たちが自ら計画を立て、自ら学ぶ力を養い、基礎学力を身につけています。

### 探求学習



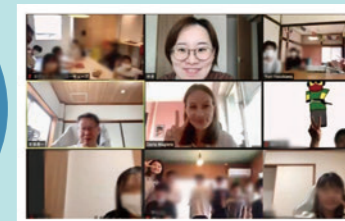
教科学習だけでなく、子どもたちの興味関心を深めて課題解決の力をつけるための探究学習を行なっています。子ども達は好きなことや興味関心から、調べたいテーマや疑問に思う問いを立てて、自分の力で調べ、最後は発表まで行っています。

### キャリア教育



子どもたちが将来のキャリアイメージを持つため、仕事について調べたり、社会で活躍する魅力的な大人の話聞く機会を設けています。アパレルブランドの「GAP」さんと毎年開催するフリーマーケットの他、今年はキッザニア福岡での職業・社会体験学習も実施しました。

### グローバル シチズンシップ 教育



次世代を担う子ども達の将来の可能性を拓くため、日本だけでなく海外について興味・関心を持てるような機会を提供しています。海外の国々と実際にビデオ通話を繋いだり、Google Earthで様々な場所を調べたりしました。また、英語に親しめるようにゲームを通じた学びにも取り組みました。

### クリエイティビティ



AI時代に必要となる0から1を生み出す能力を育むため、レゴを使った創作活動、プログラミングでの作品制作、STEM教育カリキュラムの実施、音楽体験など、創造的な活動に取り組みました。

### 体験活動



子ども達に教科学習にとどまらない様々な体験を提供するため、月に1回のペースで校外活動を実施しています。今期は科学館・博物館・美術館への訪問、デイキャンプなどでの「本物」に触れる体験や、スポーツ大会で身体を動かす経験、キャリア教育の一環として進路先訪問や職業体験など、多岐にわたる活動を行いました。

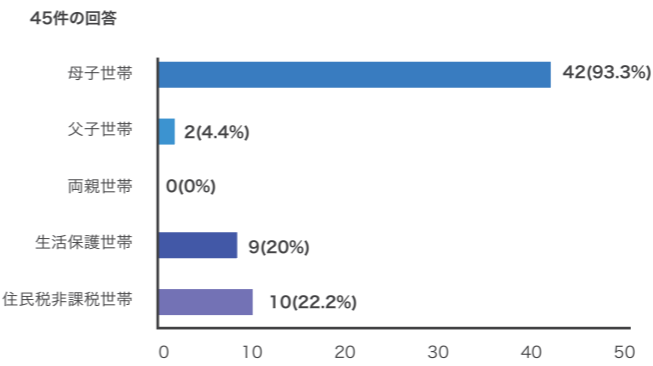
# 特別奨学制度 利用者の状況

これまでの利用者のアンケートから、奨学制度が経済的に厳しいご家庭を支えることができていることがわかりました。

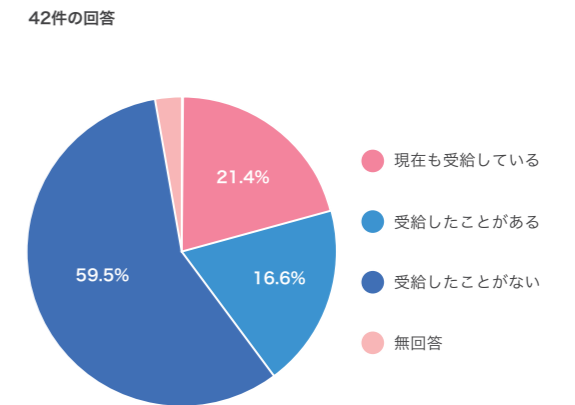
## 世帯背景

ひとり親世帯が97.7%を占め、養育費を受給したことがない世帯が59.5%

【現在もしくは奨学金制度利用時の世帯状況を教えてください】



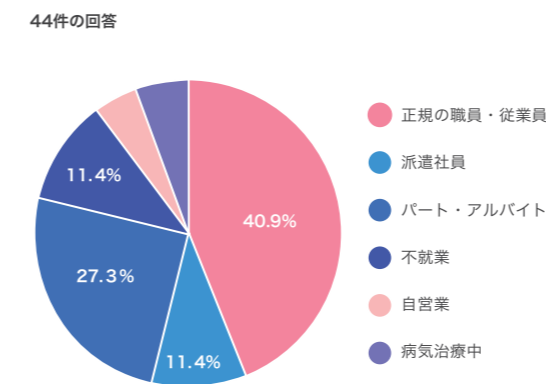
【養育費の受給状況について教えてください】



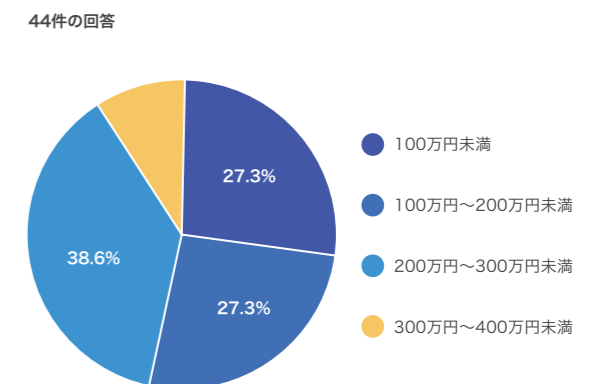
## 就業状況と世帯年収

就業している保護者が86%を占めるが、年収300万円未満が93%

【現在もしくは奨学金制度利用時の就業状況について教えてください】



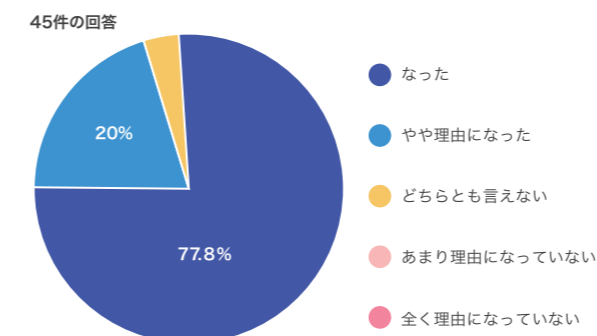
【昨年度の平均収入について教えてください】



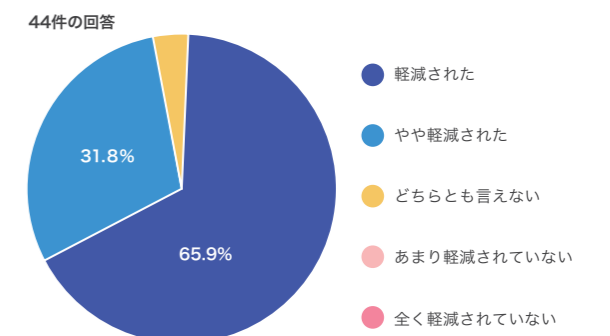
## 奨学制度の影響

奨学制度が通う理由になり、経済的負担を軽減

【奨学制度があることはスタディプレイスに通う理由になりましたか？】



【奨学制度により、経済的負担は軽減されましたか？】



## 特別奨学制度

スタディプレイスでは、経済的に厳しいひとり親世帯や生活保護世帯の子ども達を対象に授業料の50～70%を免除する奨学制度を設けています。

日本において、ひとり親世帯（母子家庭）の平均世帯年収はわずか197万円に留まっています。さらに、母子家庭の71%が収入200万円未満と、子どものいる世帯の平均に比べ、経済的に非常に厳しい状況に置かれています。ひとり親世帯（母子家庭）の保護者の80.6%が働いているにもかかわらず、ひとり親世帯の相対的貧困率が高く、日本のひとり親世帯の子どもの貧困率はOECD35ヶ国の中でワースト1位となっています。

スタディプレイスの特別奨学制度は、児童扶養手当を受給しているひとり親世帯や生活保護世帯、また特別な事情で経済的困難を抱えている世帯を対象に、授業料の50～70%を免除しています。



## ひとり親奨学制度利用者の声

支援を受けることで迷わず、すぐにスタディプレイスに通わせることが出来たことによって、息子が前を向いて受験に向けて学習したり、今後の事を考えられるようになりました。また、息子が落ち着いたことで、私も仕事に集中でき、仕事量を増やすことが出来て、収入増に繋がりました。とても感謝しています。

母子家庭で保護費で家計を支えていますので特別奨学制度があるのはとても助かります。教育、進学という時に必ず費用がかかって家計を圧迫することから十分な教育を受ける事が難しい中で、こちらの制度を利用できる事で子供達に学びの環境を整えてあげられる事が非常に助かっております。支援者の方々へ感謝いたします。

娘が公立の中学校に不登校、そして引きこもりになったとき、フリースクールという選択肢がありました。しかし経済的に難しいと思っていました。奨学制度を利用できるとわかり、娘も学校への道が閉ざされず、前に進むことができました。おかげで娘も元気になり、家族も明るくなり、奨学制度でフリースクールに行けることにとても感謝しています。

特別奨学制度を利用していることで、兄妹の習い事や食費に使えるので大変助かっています。特別奨学制度がなかったら、スタディプレイスさんへ通えないです。本当にありがとうございます。



# 第9期のトピック

## 01 行橋市のNPO法人フリースクール風の里との提携開始

2022年4月にNPO法人フリースクール風の里（福岡県行橋市）と業務提携を開始し、スタディプレイスがサポートを提供できるエリアが拡大しました。風の里に通う子ども達はオンラインでスタディプレイスに参加できるようになり、午前中はオンラインコースの生徒たちと一緒にスタッフのサポートを受けながら各自のペースで学習を進め、午後はクリエイティブ、探求、グローバル等の各種プログラムや風の里独自の活動に参加しています。既存のスクールと提携することで、オンラインのみのサポートではコミュニケーション面等に不安のある子ども達にも、広く学習機会を提供できるようになりました。



## 02 認定NPO法人の更新審査完了

2021年11月、認定NPOの更新審査が無事完了いたしました。更新により2026年まで認定NPOとして活動できることとなり、エデュケーションエキューブへのご寄付につきましても、確定申告により最大50%が税金から還付される税制優遇の適用が継続されることとなりました。支援者の皆様からのご寄付は、ひとり親世帯などの経済的に厳しいご家庭から当スクールへ通う子ども達の授業料を減免する独自の奨学制度に活用させて頂いております。生まれてくる環境を選べない中、厳しい環境でも頑張っている子ども達の学びの機会を、今後も支え続けて頂けると幸いです。引き続きのご支援の程、どうぞよろしくお願い申し上げます。



## 03 エデュケーションエキューブのnoteを開設しました

2022年1月より、新しい情報発信の場として法人公式のnoteを開設いたしました。noteでは、イベントの情報や活動レポートだけでなく、ホームページやfacebook、Instagramではお伝えしきれずにいたエデュケーションエキューブの魅力や、働くスタッフの様子・想い等を中心に発信しています。特に、これまでお伝えする機会が少なかったスタッフ達に焦点を当てたインタビュー記事は、子ども達が日々スクールでどのような大人に見守られているのかを知ることができるものとなっています。スタッフ達がどのような想いをもって入社し日々の業務にあたっているのか、等身大の言葉で語った様子が綴られています。是非ご一読ください。



ご購入はこちらから



# 収支報告

## 活動計算書（2021年7月1日～2022年6月30日）

科目		金額（円）
経常収益	受取会費	正会員受取会費 100,000
	受取寄付金	受取寄付金 5,259,307
	受取助成金等	受取助成金・補助金 5,829,044
	事業収益	スタディプレイス事業収益 14,306,870
	その他収益	511,042
経常収益計		26,006,263
経常費用	事業費	人件費計 17,040,535
		教材費 1,048,306
		業務委託費(事業) 912,110
		賃借料(事業) 3,633,000
		減価償却費(事業) 1,272,359
		その他経費計 20,127,439
		事業費計 26,993,214
管理費	人件費計 1,059,228	
	その他経費計 438,110	
経常費用計		28,490,552
当期経常増減額		△ 2,484,289
税引前当期正味財産増減額		△ 2,484,289
法人税、住民税及び事業税		171,022
当期正味財産増減額		△ 2,655,311
前期繰越正味財産額		4,595,665
次期繰越正味財産額		1,940,354

### 【解説①】

収入は前期比86%の26,006千円となりました。そのうち事業収益は14,306千円（前期比114%）となり、当初計画を下回ったものの、全体の55%（昨年は42%）まで成長しています。助成金・補助金は、助成金への依存比率の見直すため新規申請を見送ったことから、5,829千円（前期比53%、売上比22%）になりました。寄付金は5,359千円（前期比93%、売上比21%）と微減となりました。

### 【解説②】

費用は前期比90%の28,493千円となりました。3校の通念運営に加え、オンラインコーススタッフの増員により人件費が17,040千円（前期比101%）となり、全体の62%を占めています。今期は、事業収入の減少により、正味資産増減額が設立来初の▲2,655千円の赤字となりました。

### 【解説③】

貸借対照表については、赤字に伴う正味資産の減少、長期借入の返済開始、減価償却に伴う固定資産額の減少などにより、資産合計が減少し、17,699千円（前期比75%）となりました。

## 貸借対照表（2022年6月30日現在）

資産の部		負債の部	
科目	金額（円）	科目	金額（円）
流動資産	現金・預金	流動負債	流動負債 合計 2,198,690
	売上債権	固定負債	長期借入金 13,560,000
	その他流動資産		固定負債 合計 13,560,000
	流動資産 合計	12,039,806	
固定資産	建物付属設備	<b>正味財産の部</b>	
	什器 備品	正味財産	前期繰越正味財産額 4,595,665
	敷金		当期正味財産増減額 △ 2,655,311
	固定資産 合計	5,659,238	正味財産 計 1,940,354
資産の部 合計	17,699,044	負債の部・正味財産の部 合計	17,699,044

活動計算書及び貸借対照表が、エデュケーションエキューブの2022年6月30日をもって終了する事業年度について業務執行の状況、経営の状況及び同日現在の財政状態を適正に表示しているものと認めます。



### 監事 伊藤 雅浩

シティライツ法律事務所  
弁護士



### 監事 山本 教貴

山本公認会計士・税理士事務所  
公認会計士 / 税理士

# ご支援の お願い



## 認定NPO法人 エデュケーションエキューブへの 寄付は、税制優遇の対象になります。

### 認定NPO法人とは

認定NPO法人は、公益性や信頼性において、行政が審査し基準を満たしたNPO法人のみが認められる制度です。現在、認定NPO法人は、日本国内にある50,517のNPO法人の内、全体の約2%の1,255法人のみです。(2022年10月末現在)

### 認定制度の意義

認定NPO法人への寄付金の税制優遇制度は、単に寄付金が還付されるというだけでなく、寄付者が自分の意思で税金の使い道を選択できる画期的な制度であると考えています。

例えば、寄付者の皆さまが(A)10,000円を納税する場合と、(B)10,000円を認定NPOに寄付する場合を考えてみます。

(A)の場合は、一般的に所得から所得税として納税することで、税金の使い道を国や地方公共団体に委任していることになります。一方で、(B)の場合は、認定NPOへ寄付した額に寄付金控除が適用され、寄付金の約50%が国や地方公共団体を使うはずであった税金から還付されます。

つまり、自分が信頼する認定NPO法人に寄付することで、税金の用途を国や地方自治体任せにするのではなく、自らの意思で社会課題を解決する認定NPO法人に託すことができます。

是非、子どもの貧困や貧困の連鎖を解決するために、認定NPO法人であるエデュケーションエキューブへ寄付として託して頂ければと思います。

#### A.納税 (所得10,000円、税率40%のケース)



#### B.認定NPOへの寄付 (寄付10,000円、寄付控除50%のケース)



## 個人の 皆様へ

# 社会的投資として次世代を担う 子ども達を応援してください！

エデュケーションエキューブは、2016年8月に認定NPO法人の認定を頂きました。認定NPO法人は、個人寄付に対して最大約50%が戻ってくる税制優遇が適用されます。認定NPO法人として活動を継続していくためには毎年「3,000円以上の寄付者が100人以上」という条件をクリアする必要があります。組織の事業基盤を固め、多くの子ども達の支援を可能にするためにも、寄付でのご支援をお願いいたします。

### 認定NPO法人の税制優遇制度 認定NPO法人は、寄付者の皆様への税制優遇があります。

個人のご寄付の場合

寄付金の最大約50%が  
戻ってきます！

寄付金控除は次の計算式で計算します ※税額控除方式の場合  
(年間の寄付金額 - 2,000円) × 50% = 税額控除額



### 定額寄付で継続的に活動を支援する

定額寄付は、毎年3,000円からの“アニュアルサポーター”と毎月500円からの“マンスリーサポーター”が選べます。寄付金額は、アニュアルは毎年3,000/5,000/10,000/30,000円から、マンスリーは毎月500/1,000/2,000/3,000円から選ぶことができます。決済方法は、クレジットカード決済 (VISA/MASTER) もしくは銀行振込からお選びいただけます。

### 任意の金額をお好きなタイミングの寄付で支援する

金額と寄付のタイミングを任意にお選びいただくこともできます。寄付の方法は、クレジットカード(VISA/MASTER)での決済もしくは銀行振込からお選びいただけます。

### ご寄付の方法

#### 1. クレジットカードでの決済

下記URL・QRコードより手続きください。  
VISA/MASTERカードでご決済頂けます。  
<http://education-a3.net/support/kifu.html>

継続のご寄付

任意のご寄付

お手続きは  
こちら▶



#### 2. 銀行振込

金融機関：福岡銀行 今宿（いまじゅく）支店（264）  
講座情報：普通口座 451973  
口座名義：NPO法人エデュケーションエキューブ

継続のご寄付

任意のご寄付

お手続きは  
こちら▶

